



さとのかぜ

NO.163

千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

12月号 2008年12月1日発行

編集・発行 千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

〒298-0111 千葉県いすみ市万木 2050 番地

TEL 0470-86-5251 FAX 0470-86-5252

URL <http://www.isumi-sato.com/>

「正月のお飾り・しめ飾り」



←センター行事で作られたしめ飾り。右がいすみ地区で一般的な前垂注連



↑『東都歳時記』浅草寺の“年の市”の図(部分)。「餅(かざりしめ)」ののれんのかかった店には、大根注連とおぼしいしめ飾りが描かれている

12月の別名[師走]は、普段悠然と構えている師匠や先生方も走り回るほど忙しいというところからの命名とか。12月に入ったとたんに気忙しさを感じます。別名には師走のほかに1年が極まる月から[極月]や[春待月]などがあります。

さて年の暮れが近づくと、各地で正月用のしめ飾りや雑貨を商う「年(歳)の市」が開かれます。かつては社寺の境内で開かれたものですが、最近ではデパートや商店の売り出し名として使われることが多いようです。

江戸時代に著された『東都歳時記』には、「…寸地を漏らさず仮屋を補理し…注連飾りの具…種々の祝器をならべ商う声は巷にかまびすしく」と、浅草寺年の市の賑わいが載っています。しめ飾りは、年神さま(五穀豊穡を司る神)を迎えるための依代となるもので、地方によってさまざまの形があります。たとえば七五三、前垂注連、棒標(大根標、牛蒡標)、輪注連など…。ちなみに夷隅郡市は、前垂注連形が多く、現在でも家長、年男の主人が手づくりすることが多い

とか。そういえばセンター行事“おかざりをつくろう”は人気行事の一つでした。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

11月のセンター行事

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

○『わらでおきもの細工をつくろう』9日

○『第12回さとの文化祭』15日～24日

《わらでおきもの細工をつくろう》

行事当日は生憎の小雨模様でした。いつものように定刻前に集合した参加者は男性5名、女性3名の計8名。例年に比べると少ない人数でした。

センター棟の工作室前で日程の説明と諸注意を受け、むしろを手に工作室へ。思い思いの場所にむしろを広げ、尾形講師の指導のもと、まず馬の置物づくりに取り組みました。



細工に使用したワラは「京都神力」という品種で、茎が長くワラ細工に用いるのに適しているのだそうです。センターの米づく

り業務を委託されている平山さんのお話では、この“京神米”は、かつてセンター周辺の稲作農家が、自家用米としてつくったものだとか。晩生で手もかかるため、今はつくる農家はないそうです。

少ないといえば、手刈りしたイネをおだげ（はざがけ）する風景もめったに見られません。コンバインにより、刈り取りから脱穀、選別はもとより脱穀後の稲ワラの裁断までが、一貫して行われるからでしょう。

かつてワラは、衣食住の様々な場面で活用されていました。蓑や笠、米俵、むしろ等など・・・、そして最後は土に返りイネの肥料となる！ワラはほんとうに優れものです。

まずワラ馬づくりに取り組みました。最初にワラをよくすぐります。すぐるとは、根の部分

センタートピックス 12月

2009 年も

＜自然環境の保全・回復を目指します＞



2008年のセンター行事は、14日の「もちつきをしよう」、23日の「おかざりをつくろう」で終わりを迎えます。

今年1年を振り返ると、おおむね順調な成果を上げたように思えます。昨年不作だったハス田は新たな品種を加え、きれいな花をたくさん咲かせてくれましたし、2年目を迎えたアイガモ農法の稲田は、もち米に加えてうるち米にも広げた結果、昨年を超える収穫を得ることができました。

センターでは、古き良き時代の日本の伝統・文化の継承と、豊かな自然環境の保全・回復への取り組みを、いすみ地区の皆さまと共に進めてゆきたいと思っております。来る年もまたよろしくお願いいたします。



馬と亀のワラ細工をそれぞれ完成させて大満足。笑顔がこぼれます

のハカマをしごいて取り除くこと。すぐったワラによりをかけ、馬の耳と顔の土台をつくり、ワラを巻いて馬の頭部とします。次はく首の部分。たてがみをつけ、前足、胴体後ろ足、最後に尻尾をつけてでき上がり。皆大小2体のワラ馬を完成させました。

つづいてカメに挑戦です。まず甲羅の部分をつくります。太めのワラ数本をそろえて束ね、交差させて編み、丸くなるように形を整えます。次に頭と甲羅の周りの飾りをつくり、足と尾をつけて完成です。馬もカメも皆思った以上の出来栄えとなったのは、わかり易い指導はもちろんです。扱いやすい京都神力のワラの力があつたおかげでしょう。さらに温かなワラの感触には、癒の効果もある気がします。

《第12回さとの文化祭》



壁面を埋める絵画や工作作品の一つひとつを熱心に観賞する2人

さたされたそうです。ちなみに最優秀賞は絵画6作品、工作6作品、自由研究4作品の計16作品に。優秀賞は絵画16作品、工作12作品、自由研究13作品、その他1作品の計42作品に。優良賞は絵画19作品が選ばれました。



竹細工の展示風景

は、いずれも夷隅地区の豊かな自然環境から生み出されたものばかりで、身近な自然の保全と回復、地域の歴史・文化の継承に取り組むセンターにふさわしいものでした。

「夷隅郡市の文化祭として、もっと多くの人に知ってもらい、よりたくさん的一般参加者の作品が集まる文化祭にしたい」と大曾根センター長。来年の文化祭が楽しみです。

(大東 悠子)

15日から24日まで、センター棟の和室と工作室をメイン会場として行なわれた「さとの文化祭」は、10日間で延べ1400人の観客を集めて盛況のうちに幕を閉じました。

夷隅郡市の23小学校からは計449点の作品が寄せられました。内訳は絵画324点、工作60点、自由研究59点、その他6点の。いずれも力作ぞろい。3部門、6学年に分けて行なわれた作品審査では、

生方が選ぶのに苦勞

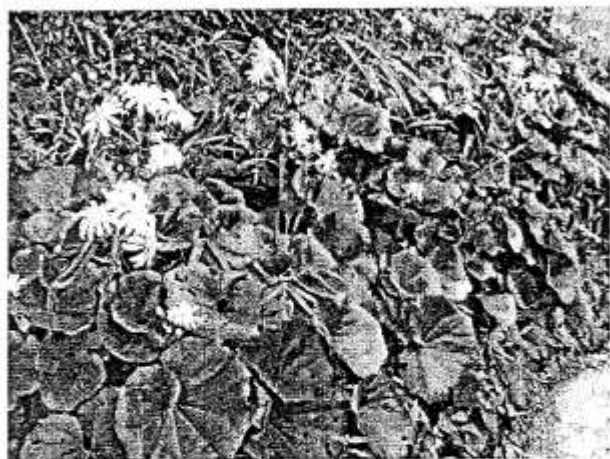
今年の文化祭の特色は、一般からの参加作品が多く寄せられたことです。俳画9点、いすみ楊枝25点、竹細工9点、創作折り紙6点、焼き物5点、自然素材を利用した和装小物2点に加え、見事に仕立てられた大菊の鉢等々…。子供たちばかりでなく大人も楽しめる10日間となりました。

一般参加者の出品作品



一般参加者の俳画と焼き物の展示コーナー

和泉-日在浦だより ヨウ素の生産と人体への摂取 (12月1日)



初冬の青空に映えるツワブキ(11/4)

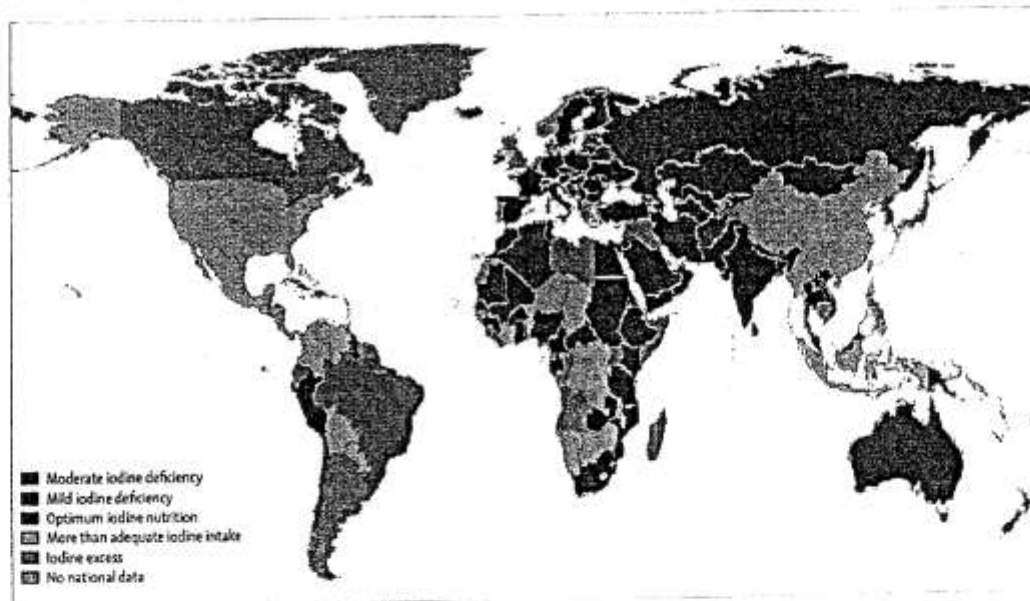
[初冬浜辺の植物]

初冬浜辺の散策の目を楽しませてくれるツワブキは、光沢ある濃緑の厚い葉を持ち、ほかの花が終わった今の時期に黄色い花を咲かせていますが、元来海岸の岩や崖に生えるキク科に属する多年草の野草です。道端近くの草地では、水仙が勢いよく葉を伸ばし蕾をつけたものもあり、匍匐型のガザニア(当地では四季咲き)は次々と白や黄色の花を咲かせています。イヌマキの生垣が続く道路には、サザンカの花が満開になり、薔薇の蕾も膨らんでいます。

[ヨウ素の生産と人体への摂取について]

ヨウ素は人体に不可欠な元素ですが、世界中で生産・輸出できるのは日本とチリだけで、日本ではその殆どを千葉県内で天然ガス随伴の「かん水」から産出しています。人体では体外から摂取したヨウ素で甲状腺ホルモンを作っており、不足するとヨウ素不足疾患(IDD)の症状が現れてきます。11月7日千葉大学で開催されたヨウ素学会に出席しました。

M. ツインマーマン博士(スイス連邦技術研究所)から、世界のヨウ素摂取不足の現状と課題について講演がありました。日本人は海草類を食べておりヨウ素不足にはなりません、アジア、アフリカ、欧州でヨウ素不足の患者が約50ヶ国に20億人いると推定されています。



国別ヨウ素摂取分布図(WHO_database: 2007-1-14)

[ヨウ素不足疾患と世界全体へのヨウ素分配のあり方]

ヨウ素の摂取量が不足すると、成長障害(低身長や低体重)や知的機能障害が認められると報告されており、その危険性は子供や妊産婦(胎児も含め)の場合特に被害が大きいことが知られています。世界保健機構(WHO)等により、1990年以降世界のヨウ素摂取不足の地域に対して、不足分をヨウ素含有食塩として提供する対策が講じられてきましたが、まだ問題をすべて解決するに至っていません。千葉県がヨウ素を生産・輸出する上で果たしている役割は世界に誇れるものであり、今なお20億人いるヨウ素不足疾患の患者を救うため、この貴重な資源の世界全体への分配のあり方を考えてゆくことが極めて大切であると思いました。

[森谷 潤(もりや ふかし)]

◎今、いすみでは???

<冬鳥の季節がやってきました!>

今日は11月22日(土)、ポカポカと暖かい小春日和です。秋の虫たちの声はすっかり小さくなり、代わりに冬鳥の鳴き声が聞かれるようになりました。湿性生態園に向かう途中、藪の中から「チッ」という小さな声が聞こえてきます。注意深く見ていると、一見スズメに似た胸が黄色く斑点混じりの鳥が見つかります。**アオジ**です。夏は標高の高いところや北日本にいますが、冬になると平地にやってきます。湿性生態園のヤナギの梢には、これまたスズメのような鳥がたくさん「チッ、チッ」と鳴きながら移動しているのが見られます。よく見ると、頭の毛(羽)が立っただおもしろい格好をしています。



アオジ



カシラダカ

カシラダカです。冬鳥として北の国からやってきます。万木沼には、いつもいる**カルガモ**や**カイツブリ**に加え、**マガモ**、



マガモ

コガモなどのカモ類が増えてきました。体が黒くくちばしの白い**オオバン**も来ました。冬鳥たちの季節がやってきました。



ヤマハゼ

センター館内で飼育している**カメ**も冬眠に入り、冬の寒さになってきました。周囲では**ヤマハゼ**の紅葉や**リュウノウギク**の白い花がきれいです。冬には冬しか楽しめない自然があります。これからさらに寒さも厳しくなりますが、温かい格好で双眼鏡を片手に「冬のさとの散策」はいかがですか。色々な発見に、身も心も少し温まるかもしれません。

※当センターでは、双眼鏡を無料貸し出ししております。ぜひご利用ください。

いすみの気象情報(11月)

平均気温：11.1℃ 最高気温：22.5℃ 最低気温：1.3℃ 総雨量：109.5mm



フ イ チ ゴ
(バラ科)

今月の

見い~つけた! No.8

普通、野イチゴは夏に実をつけますが、この野イチゴは珍しく11月から12月ぐらいの冬に赤い実をつけます。「冬イチゴ」とは、その名のとおりです。先日、湿性生態園に向かう道の林の脇にあるのを、大多喜町の特別支援学級の皆さんが見つめました。1cmほどの小さな実ですが、甘酸っぱくておいしいです。皆さん、夢中で食べていました。

(堺 勇人)

12月の行事案内

- ★『つるでリースづくり』定員20名
日 時 7日(日) 9:30~16:00
参加対象 高校生以上
場 所 センター地区
持ち物 剪定ばさみ、軍手、お弁当
- ★『もちつきをしよう』定員40名
日 時 14日(日) 9:30~14:00
場 所 センター地区
持ち物 タオル、寒くない服装
- ★『おかざりをつくろう』合計40名
日 時 23日(火祝)
午前の部 9:00~12:00
午後の部 13:00~16:00
場 所 ネイチャーセンター
持ち物 材料費1人400円程度、
工作ばさみ、座布団

<1月の行事予定>

- ★『そば打ちをしよう』定員20名
日 時 18日(日) 9:30~14:00
集合場所 ネイチャーセンター
持ち物 材料実費負担、エプロン、タオル、
こね鉢かボール
- ★『わぞうりをつくろう』定員20名
日 時 25日(日) 9:30~16:00
参加対象 小学5年生以上
場 所 ネイチャーセンター
持ち物 木ばさみ、座布団、お弁当

2月の行事予定

- 『干潟の鳥たち』
1日(日)8:30~11:30 定員20名
雨天延期2月8日(日)へ
集合場所:ネイチャーセンター
- 『つるでかごづくり』
22日(日)9:30~16:00 定員20名
雨天実施
参加対象:高校生以上
場所:ネイチャーセンター
持ち物:鎌、剪定ばさみ、軍手、お弁当
- *12月2日(火)申し込み受け付け開始

いすみ楊枝 —千葉県伝統工芸品

センターでは、「いすみ楊枝」を県内外に広く紹介するため、毎月高木守人氏に実演をお願いしています。

- 日 時 1月18日(9:30~16:00)
場 所 ネイチャーセンター
講 師 高木 守人氏
参加料 無料
内 容 楊枝・花入れ・茶杓作り

*次回は2月15日(日)開催予定です。

行事への参加申し込み、お問い合わせは、電話(0470-86-5251)、ファックス(0470-86-5252)、または、直接センター事務室にお申し出下さい。定員のあるものについては、定員になり次第締め切らせていただきます。あらかじめご了承下さい。

* eメール可(メールアドレス:info@isumi-sato.com(@は全角です))

* 行事申し込み後、都合によりキャンセルする場合は必ず早めにセンターまでご連絡下さい。

*「さとのかぜ」の定期購読を希望される方は、郵便代として、80円切手12枚、または960円にて受付ます。

◆ ◆ ◆ 利用案内 ◆ ◆ ◆

休館日:毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12月29日~翌年1月3日

開館時間:9:00~16:30、入館料:無料

なお、団体で案内や解説などを希望される場合は、2週間前までにお申し込み下さい。